

平成29年度自己評価計画書

石川県立内灘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	備考(時期・対象)	
1	より適切な生徒個々の実態把握及びコミュニケーション能力を育成する環境整備を通して、基本的な生活習慣の確立を図る。	① 積極的な声かけ・挨拶を通じて、円滑な人間関係の構築を図る。	全教職員	コミュニケーションの初歩である挨拶が苦手な生徒がみられる。自ら進んで元氣な挨拶ができる生徒が少ない。	【成果指標】 授業の挨拶等ができた生徒の割合	授業の挨拶等ができた生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C・Dなら 検討	7月及び 12月に調査 生徒 教員
		② 無断欠席・遅刻防止のために、家庭との連携を密にするとともに、学校全体として「時間を守る」生活習慣を身につけさせる。	生徒課 各担任	10回以上遅刻した生徒の約半数が年間15回以上の遅刻常習者となっている。	【成果指標】 年間10回以上遅刻する生徒の数を昨年度の72名より半減する	年間遅刻回数10回以上の生徒数が A 30名未満 B 30名～36名 C 37名～44名 D 45名以上	C・Dなら 検討	7月及び 2月に調査 生徒課
		③ 多様な生徒がいることを相互に認め合う環境作りに取り組む。	相談室 全教職員	人間関係作りの苦手な生徒が各クラスに見られる。	【成果指標】 他者との共感力と寛容の態度を育む環境作り資する教員の校内研修を3回以上行う	校内研修会の回数が A 5回以上 B 3回 C 2回 D 1回以下	C・Dなら 検討	2月に調査 相談室
		④ 人権尊重・いじめ防止に関するさまざまな課題に取り組む。	生徒課 相談課 全教職員	ホーム担任が課題を抱え込む傾向が見られる。	【成果指標】 いじめ問題に「チーム学校」として、その解決に当たる	いじめが起きた場合、教職員、カウンセラーなど全員で対応しているという肯定的評価が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C・Dなら 検討	12月に調査 教員
		⑤ 自転車乗車マナーの向上を通じて、規律を尊重する態度を養う。	生徒課 各学年	自転車通学者の乗車違反件数が前年比で倍増している。今年度の最重要目標である。	【成果指標】 県警による交通違反指導件数を昨年度の52件より半減する	年間交通違反指導件数が A 20件未満 B 20件～26件 C 27件～34件 D 35件以上	C・Dなら 検討	2月に調査 生徒課
2	本校の現状に見合ったICTの効果的活用法の開発やアクティブ・ラーニングの視点に立った授業を通して、興味・関心・意欲の高揚及び基礎学力の定着を図る。	① 基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	教務課 各教科	学習能力の差が広がり、個々の生徒に応じた細やかな授業の進め方や教材の工夫が必要である。	【成果指標】 個に応じた指導や教材、教具の工夫によって、授業内容がよく分かったと答える生徒の割合	授業がわかりやすいと感じた生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C・Dなら 検討	7月及び 12月に調査 生徒
		② 年間を通して、全教師が互いの授業を参観し、課題意識を持って授業改善に取り組む。	教務課 各教科	学習能力の差が広がっており、授業に参加できないなど多様な生徒がいる。個々の生徒に応じた細やかな授業の進め方や工夫が必要である。	【成果指標】 教員同士が意欲的に授業を参観し、参観後は授業者の授業改善の基になる授業参観シートを提出	互見授業をした平均回数が A 10回以上 B 7～9回 C 4～6回 D 4回未満	C・Dなら 検討	7月及び 12月に調査 教員
		③	教務課 各教科 各学年	ICTを活用した授業スタイルや思考を促す発問などの授業改善に取り組む。	【成果指標】 全ての教員がICTを活用した授業を実施し、教科会で報告し授業改善に活かす。	ICTの活用など授業に工夫が見られるとする肯定的評価が A 75%以上 B 70%～74% C 65%～69% D 65%未満	C・Dなら 検討	7月及び 12月に調査 教員 生徒
		④ 課題・宿題等について工夫するとともに、提出を徹底させる。	教務課 生徒課 各学年	学習能力の差が広がっており、学力差がある中でも学習意欲を高めることのできるような課題の工夫が必要である。	【成果指標】 課題・宿題等を期日までに提出する生徒の割合	提出状況が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C・Dなら 検討	7月及び 12月に調査 教員 生徒

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	備 考		
3	最新の進路情報の提供や地域の外部人材の積極的活用により、早期から進路意識の高揚を図る。	①	3年間を見通した指導計画に基づき、能力・適性に応じた支援・指導を、外部人材の助力も得ながら行う。	進路課 各学年	進路意識が低く、進路選択になかなか取組めない生徒がいる。	【成果指標】 自分の進路に関心を持つようになり、将来を前向きに考えられるようになった生徒の割合	進路意識が向上した生徒が A 85%以上 B 65%～84% C 45%～64% D 45%未満	C・Dなら 検討	7月及び 12月に調査 生徒
		②	ハローワークや地域の企業等と連携して、就業の支援・指導を行う。	進路課 各学年	生徒の志望・適性を鑑み、より多面的な支援・指導が必要である。	【成果指標】 就職決定率	就職希望者の決定率が A 100% B 95%～99% C 90%～94% D 90%未満	C・Dなら 検討	2月に調査 進路課
4	地元内灘町の地域行事に積極的に参画し、保護者及び内灘町とともに地域社会に貢献する態度を養う。	①	学校への関心・理解を深めるため、PTA総会や学校公開週間、文化祭等の参加者を増加させる。	総務課 教務課	昨年度はPTA総会の来校者は21名であった。参加者を増やし、もっと本校の教育活動について理解してもらう必要がある。	【成果指標】 来校者の延べ人数及びPTA総会の来校者数	来校者の延べ数が A 500名以上 B 450名～499名 C 400名～449名 D 400名未満 PTA総会の来校者数が A 70名以上 B 60名～69名 C 50名～59名 D 50名未満	C・Dなら 検討	12月に調査 総務課
		②	地域活動へ積極的に参加するとともに、地域と連携した課外活動やボランティア活動を企画・実践する。	生徒課 各部顧問 総務課	「清風隊」を中心に、地域貢献活動を行っている。学校全体で地域と連携した活動を行い、学校の活性化に繋げたい。	【努力指標】 地域と連携した活動の回数及び参加した生徒の延べ人数	地域と連携した活動の回数が A 100回以上 B 75回～99回 C 50回～74回 D 50回未満 参加生徒の延べ人数が A 3000名以上 B 2500名～2999名 C 2000名～2499名 D 2000名未満	C・Dなら 検討	2月に調査 生徒課 総務課 進路課
		③	地元中学校との交流を企画し、体験入学などを通して本校をPRする。	教務課 総務課	生徒による地域中学校との交流が少なかった。体験入学でも参加者が少なかった。	【成果指標】 体験入学や学校公開等に参加する中学生の延べ数 地域の中学校との交流企画の回数	中学生の来校者数が A 400名以上 B 350名～399名 C 300名～349名 D 300名未満 地域の中学校との交流の回数が A 20回以上 B 20回～24回 C 15回～19回 D 15回未満	C・Dなら 検討	12月に調査 教務課 総務課